

序文

作業療法は作業を通して健康(health and well being)を促進することに関心をもつ専門職である。作業とは人々が日常生活で行うことである。作業療法の基本目標は、作業に人々が参加することである。人々の参加は、その人の個人の能力によって、作業をするのに何が重要かという作業の性質によって、また物理的、社会的、制度的環境や人々の態度によって、促進されたり制限されたりすると、作業療法士は信じている。それゆえ、作業療法実践は、人や作業や環境の側面を変えて、一人ひとりができるようになるということに焦点を当てる。

人道主義的哲学が、作業療法実践の基盤となっている。このことが意味するのは、作業療法士がすべてのクライアントと人間関係をもつ上で、人を中心におくということである。作業療法のクライアントには、個人、家族、集団、コミュニティ、組織、住民全般が含まれる。

作業療法実践を導く基本的前提は、人間と健康に対する作業的視点である。この前提には次のことが含まれる(Polatajko 他, 2007, Wilcock, 2006)。

- 人は作業に結び付くという生来のニードと能力をもつ、
- 作業は健康に影響を与える、
- 作業は時間を組織化し、生活を構造化する、
- 作業は個人的に意味深いものであり、また状況の意味をもつ、
- 作業と結び付くことは独特なものであり、状況に関連する、
- 作業は治療的潜在力をもつ。

この文書のポジション

作業療法とはクライアント中心であり、作業に焦点を当てたものである。

作業療法の目的は、個人的にしたいと思う作業、する必要がある作業、社会的に文化的にすることを期待されている作業に参加することを、クライアントができるようになることである。

作業療法において、作業療法士は、クライアントを尊重してパートナーとなり、人々の主観的な参加の経験に価値をおき、人々の知識、希望、夢、自律性に敬意を表する。

文献

1. Polatajko, H, Davis, J., Stewart, D., Cartin, N., Amoroso, B., Purdie, L. & Zimmerman, D. (2007). Specifying the domain of concern. In E. Townsend & H. Polatajko (Eds), *Enabling Occupation II: Advancing an Occupational Therapy vision for Health, Well-being & Justice Through Occupation* (pp. 13-36). Ottawa: Canadian Association of Occupational Therapists. (吉川ひろみ訳. 関心領域の特定. 吉川ひろみ, 吉野英子監訳, 続・作業療法の視点 作業を通しての健康と公正. pp.34-60, 大学教育出版, 2011).
2. Wilcock, A. (2006). *An Occupational Perspective of Health*. (2nd ed.) Thorofare: Slack.
- 4) WFOT: Code of Ethics (revised 2005). WFOT.
- 5) Burnett, T., et al, (2008): *Entry Level competencies for Occupational Therapists*. WFOT.
- 6) World Health Organization (WHO). *Global Competency Model*.
- 7) COTEC and ENOTHE (2008)